

近紫外線除去フィルムと天敵放飼によるハモグリバエ防除

[研究のねらい]

ハモグリバエ類の防除対策として、近紫外線除去フィルム（以下、UVA）をハウスの外張りに使用すると侵入防止効果が高いことがわかりました。また天敵寄生蜂イサエアヒメコバチ放飼による生物的防除も実用化されています。そこで、両者の組み合わせの有効性を明らかにします。

[研究の成果]

- ①イサエアヒメコバチは近紫外線除去条件下でも寄主を探索し、マメハモグリバエに寄生します（写真1）。
- ②UVA被覆ハウスにおけるミニトマト促成栽培で、イサエアヒメコバチを放飼するとトマトハモグリバエの防除効果が認められます（図1）。

[成果の活用面・留意点]

- ①UVA被覆によってハモグリバエ類の飛来侵入を忌避させ、それでも発生したハモグリバエは寄生蜂で防除します。
- ②UVA被覆はハモグリバエ類、コナジラミ類、アブラムシ類、アザミウマ類に対して侵入防止効果があり、灰色かび病の発生も抑制します。しかしミツバチにも影響があるので、ミツバチを利用する栽培には使用できません。また果実の着色を阻害するためナス栽培にも使用できません。



写真1 マメハモグリバエ幼虫に産卵するイサエアヒメコバチ成虫

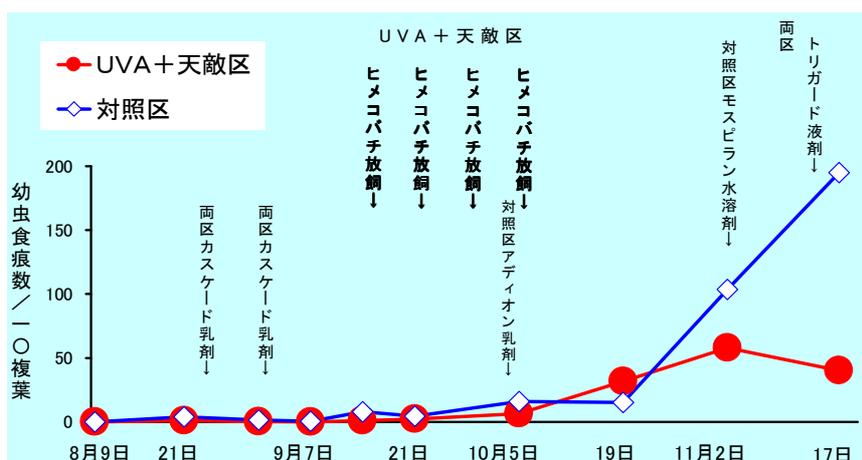


図1 UVA被覆とイサエアヒメコバチ放飼によるミニトマトのトマトハモグリバエの防除効果(2000年)

注)ミニトマトは2000年8月2日定植

実施年度：平成12年

担当者：井口雅裕